

郷土資料館だより

Vol. 20, No.1

1997. 11. 20



ぼくらは^{きたうえ}北上探検隊

佐野街道の分かれ道「道標」^{みちしるべ}

晴れ渡った青空の10月11日(出)の朝、ぼくらは大社前を元気よく出発した。いよいよ北上の探検だ。

平成9年度最後の企画展「きたうえ村」の開催(10年3月～5月)に先立ち、市内の小学生と三島市の北端地区・旧北上村歴史探訪を行った。

旧北上村は明治22年に徳倉・幸原・壺町田・沢地・佐野(荻ヶ窪)の5ヵ村が合併して成立し、昭和10年まで存続してきた自治体である。当初は君沢郡に属すが、明治29年からは田方郡所属となる。昭和10年には南隣の旧三島町と合併し、明治以来の村は解消した。

昔を知っている人たちに尋ねると、「きたがみ」あるいは「きたかみ」と呼ぶが、今では「きたうえ」が通称となっている。北上は石造物の多いところ、龍澤寺や歓喜寺などの名刹のあるところ等々で親しまれているが、まだまだ知らない村の歴史や民俗がたくさん埋もれているところでもある。「北上探検隊」は、そのような昔の北上村を訪ねて出発したのである。

その一つ、佐野街道の分かれ道「道標」は「鎧坂」の途中にある。三嶋大社から北に向かい、

昔の宿はずれ「北口」を過ぎると登り坂にかかる。戦国甲州の武将・武田信玄の伝説がある鎧坂だ。坂を登り詰めると元重砲兵連隊のあった銀杏並木になる。現在は北中学校・日本大学などになって道筋が変わっているが、古い坂道は昔の趣をしのばせる。

佐野街道にはいろいろな呼称がある。佐野、すなわち現在の裾野市に向かう道ゆえの名称である。佐野の先の須山にも向かっているから須山街道と呼ぶ人もいる。古い富士登山道の呼称だ。江戸時代の三島宿絵図には三嶋大社西側から北に向かう道筋を甲州道とも記している。甲州へも通じているのだ。また、足柄道とも重なり、矢倉沢の関を経て相模の国に通じる官道であり矢倉沢通りとも呼ばれていたことがある。

現在建てられている道標は、「左佐野街道、右龍澤寺」と記され、手の指がそれぞれの方向を指している。明治以後の佐野街道からの分岐点「沢地道」への入口である。沢地には臨済宗妙心寺派の名刹龍澤寺がある。名僧白隠^{はくいん}禅師をはじめ、鐺^{こてえ}絵の名人伊豆の長八の作品が残ることで知られる。

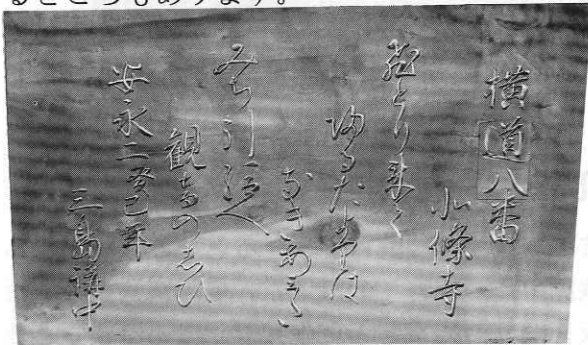
企画展「横道巡礼」を終わって

伊豆・駿河の観音霊場を紹介する企画展「庶民の小さな旅 横道巡礼 駿豆霊場めぐりを中心に」(平成9年7月20日～8月31日)が終了しました。(入館者数 10,174人)

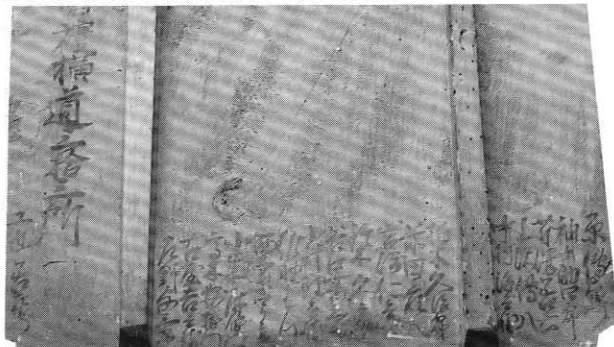
今回の展示にあたり、江戸時代～昭和初期に庶民の信仰を集めた「駿豆両国横道三十三観音霊場」の各札所に調査に伺いました。

駿豆両国横道は三島の白滝観音(現在は常林寺にある)を1番札所とし、函南町・伊豆長岡町・韮山町・修善寺町・沼津市から東海道沿いに静岡市まで、中世や近世の信仰を集めた観音霊場を巡る、清水市霊山寺までの33ヶ寺で、徒歩で約2週間かかる巡礼の旅でした。

どの霊場も信仰の跡をとどめ、巡礼供養塔が建ち、横道巡礼絵馬・巡礼写真が残っているところもあります。



▲御詠歌額(北條寺蔵、伊豆長岡町)



▲上の額の裏面



▲御詠歌額(法華寺蔵、三島市)

1. 江戸時代の御詠歌奉納額^{えいか}

駿豆両国横道の札所の中には、江戸時代中期(安永2年、1773)に奉納された御詠歌の木額を見ることができます。

これは、隅を丸く落とした厚手の一枚板に、各札所の御詠歌が同じ書体で刻まれたものです。「安永2年、三島講中」と刻まれ、裏に奉納者名が墨書されています。ほとんどが素木ですが、龍雲寺(蒲原町)のものは朱塗りとなっており、当初から塗られていたのかは不明です。

墨書された奉納者名が最も鮮明に判読できる北条寺(伊豆長岡町)のものには、原伝右衛門以下17人の奉納者名が読めます。原・芹澤・上沢・中村・柏木・前田・岩崎・鈴木・谷口・小林・古屋・高木・西島等の名字が判明していますが、彼等は江戸時代中期の三島宿を支えた旦那衆ではないのでしょうか。

また、これら木額の中に、現在は廃寺となった寺院の名称を見ることができます。三島の竹林寺、富士の清林寺です。

竹林寺は、真言宗愛染院(三島市一番町、廃寺)の末寺で、江戸時代は三島の有力寺院でした。江戸末期に廃寺となり、本尊の聖観音は隣接する法華寺(三島市東本町)に移り、霊場と巡礼供養塔も移されました。

清林寺(富士市天間)は現在「手無観音」として親しまれ、近くの福泉寺(日蓮宗)が管理しています。かつて清流寺として栄えていましたが、この木額により、江戸中期の名称が清林寺であったことが判明しました。

2. 真言宗系寺院の盛衰

今回の調査で目立ったのは、真言宗系寺院の盛衰の激しさです。いずれの寺院も、江戸時代までは幕府の庇護を受け、地域の信仰を集め隆盛を誇っていました。現在、観音堂が1つ残るだけの所、廃寺となり霊場が他の寺に移ったもの、無住の寺、大きな建物がことごとく壊され地域の人が小堂を建て観音像を守っている所など、ひっそりと霊場が守られていました。堂の広さ・造りの豪華さから往

時の繁栄をしのぶことができます。

これは、明治に入り廃仏毀釈で廃寺とされた寺院の中に、神社と密接な関係にあった真言宗系の寺院が多かったためと思われます。ことに、静岡市の建徳寺は壮大な伽藍を誇った寺でしたが、静岡の浅間神社の別当寺で神社を威圧していたこともあり、建物はことごとく壊されてしまっています。

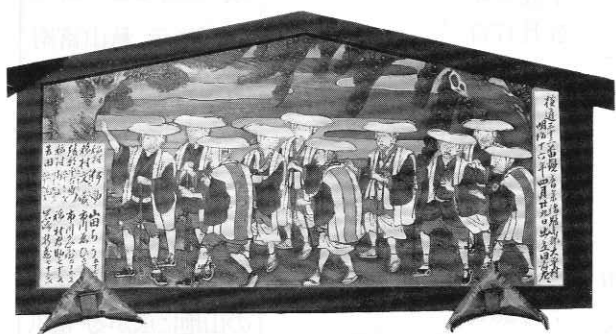
この他、戦後の農地解放により、各寺院の寺領が小作農に解放され、経済的基盤も揺らいでしまったのです。

横道観音霊場は江戸時代に庶民の信仰を集めた県東部の有力寺院の足跡を残しているといえるでしょう。



▲横道巡礼絵馬（霊山寺蔵、清水市）

文久2年（1862）3月、霊山寺のふもと大内村（現、清水市）他の8人の女性によって奉納された。白衣にワラジ、編笠という旅装束の一行が描かれている。



▲横道巡礼絵馬（徳楽寺蔵、沼津市）

明治16年、駿東郡大平村（現、沼津市）の男6人女4人（47～73才）の巡礼により奉納された。裏に墨書で、明治16年4月29日出立、同5月11日に終了したと書かれている。



▲横道巡礼絵馬（大泉寺蔵、沼津市）

明治40年3月に奉納されたもの。原町一本松・原町新田（共に沼津市西部）の巡礼に参加した13人の女性が描かれている。この頃より、洋傘を持つのが流行だったらしい。一運齋国秀の絵。背景の寺院は当時の大泉寺であろうか。



▲横道巡礼絵馬（霊山寺蔵、清水市）

明治42年2月、大内村（現、清水市）の5人の巡礼者が奉納した。大内貞山が描いている。老女の洋傘をさす姿が晴れやかである。（紙本着色）



▲横道巡礼絵馬（重寺観音堂蔵、沼津市）

大正5年10月、内浦重寺の9人の巡礼が奉納したもの。一人一人の表情が豊かで、緊張感があり、全体の構図も立体的である。他の絵馬には見られない近代的な絵となっている。（布地着色）

平成8年度 三島市郷土館事業報告

郷土資料館では、常設展示の充実を図り企画展を開催、市民各層を対象とした講座を開催しました。おもなものは次のとおりです。

区分	事業名	内容	実施日	入館者又は参加者	備考
常設展示	ふるさとの自然と民俗(2階) 三島の歴史(3階)	三島暦、三四呂人形、農具、下駄作り道具、農家・商家の復元家屋など旧石器時代から江戸時代までの三島の歴史を展示	年間		2・3階は常設展示場
企画展示	「三島の近世の教育」	江戸時代の三島の教育・文化を育んだ代表的な教育者・研究者やその業績、寺子屋・塾を紹介	平成8年 3月17日 ～ 5月12日	18,080人	並河誠所と漢学塾、その師弟関係、『五畿内志』などの研究所の展示。秋山富南とその業績『豆州志稿』等。吉原親子と三島 ほか
	「三島の山の祭・里の祭」	三島を特徴づける箱根西麓に分布する「竜爪さんの祭り」と中郷地区の「天王さんの祭り」の紹介	7月20日 ～ 9月16日	8,562人	箱根西麓地区や周辺の山地に広がる「竜爪さんの祭り」と「天王さんの祭り」ほか
	「発掘された箱根旧街道」	延宝8年(1680)整備された、箱根西坂の腰巻地区・願合寺地区・浅間平地区の石畳を発掘調査資料にもとづき紹介	10月20日 ～ 平成9年 2月11日	32,302人	埋れている石畳を復元・整備するため約1200m発掘
	「農兵節と平井源太郎」	三島を代表する民謡の「農兵節」のルーツを探る。	3月16日 ～ 5月11日	13,949人	農兵節の曲と歌詞のルーツ、農兵節と平井源太郎ほか
教育普及	縄文土器作り 教室	夏休みを利用し、土器作りをとおして古代の生活に対する理解・学習する体験教室	7月24日 26日 8月22日	小学生34人	講師 館職員
	郷土教室	「機織りと糸つむぎ」	6月8日	小学生17人	講師 井上一雄氏
		「竹細工作り」	7月13日	小学生24人	講師 瀬川 到氏
		「紙飛行機を飛ばそう」	10月12日	小学生21人	同 上
		「凧を作ってあげよう」	12月4日	小学生20人	同 上
	「古代の生活を体験・クッキー作り」	11月7日	小学生16人	講師 池谷初恵氏	

区分	事業名	内容	実施日	入館者又は参加者	備考
教育普及	夏の郷土学習	「箱根旧街道を歩く」接待茶屋から三ツ谷松雲寺まで歩き、史跡や歴史の話聞いた。	8月7日	小学生27人	講師 杉浦幸男氏
	郷土館講座	「秀吉以前の三島」	10月15日	108人	講師 東島 誠氏
		「秀吉・山中城を焼き尽くす」	10月16日	125人	講師 斉藤 宏氏
		「発掘された箱根旧街道」	11月13日	61人	講師 鈴木敏中氏 辻 真人氏
		「農兵節と平井源太郎」	平成9年 3月21日	75人	講師 秋津 亘氏 長谷川福太郎氏 ほか
	ふるさと講座 連続4回	①「市内の石造物めぐり」	9月27日	33人	講師 鈴木辰己氏
		②「下田街道史跡めぐり」	10月4日		講師 迫田信行氏
		③「城あと探訪」	10月11日		講師 半田 衛氏
		④「北上地区史跡めぐり」	10月30日		講師 津高重作氏
	出版活動	「郷土館だより」の発行	郷土館広報及び調査報告など	年3回	各1500部
企画展関連出版		①『三島の近世の教育』パンフレット		2000部	無料配布
		②『三島の山の祭・里の祭』パンフレット		2000部	無料配布
		③『農兵節と平井源太郎』パンフレット		2000部	無料配布
		④『発掘された箱根旧街道』図録		300部	1100円販売
郷土館記念品	箱根路西坂史跡テレホンカード 「石畳」「松並木」		各1600枚	1枚800円販売	
樋口古文書研究	『御旗本方御先代并御高御屋敷之記』	3月発売	300部	1800円販売	

その他の主要事業

1. 外壁塗装改修工事（工期7月10日～9月30日）
2. 収蔵品「三四呂人形」修復（「磯」「メリーさん」「黒髪」）
3. 「永享九年三島暦」（足利文庫所蔵）複製制作
4. 「ふるさと人物説明板」設置
並河五一（泉町、本覚寺）箕田寿平（青木、周福寺）

三島市郷土館は、平成9年4月1日より三島市郷土資料館と名称変更になりました。（三島市条例第13号改正）

郷土にゆかりある人物の紹介「人物説明板」

散策コースに先人たちの偉業を尋ねてみませんか!!

郷土資料館では、我がまち三島に貢献された人物あるいは三島にゆかりがあり学術・芸術などに優れた業績のある人物を市民の皆様につ

ていただくために「ふるさとの人物説明板」を建てて紹介し、今後も順次継続してまいります。



佐野滝入

滝之本連水

(1832~1892)

俳人

俳書『雲霧集』出版

代々伊豆佐野の名主を務める家柄で父の手ほどきもあり、26才の若さで「俳閑」の額を授った。

地方俳諧の指導者として多くの門人を集めた。

並河五一

(1668~1738)

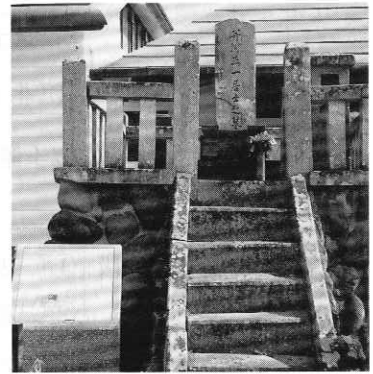
漢学者

『五畿内志』編さん

山城の国、横大路の富農に生れ、伊藤仁斉に学び若くして学者として名声をあげた。三島には、三島明神の神主矢田部休翁に招かれた。57才の時、私塾「仰止館」を開き土地の子弟を教育した。

弟子の中に『豆州志稿』を著した秋山富南がいる。

泉町 本覚寺



鶴喰 周福寺

箕田寿平

(1840~1909)

俳人

旧君沢郡八反畑に生れ、近代三島の俳諧の師と仰がれた「孤山堂凌頂」と号した。

15才の時三島宿の高名な漢学者、福井雪水に学び、三島出身の江戸俳諧の重鎮孤山堂卓郎の門下に入る。

明治に入り俳諧雑誌『四季の花波』を創刊。俳諧研究会を主催、その活動は彼の名を広く知らしめた。

『豆州志稿』と『南方海島志』は江戸期に編され、伊豆を代表する地誌として知られている。

富南の先祖は甲斐武田家の遺臣で戦国時代安久に移り住んだと伝えられている。

『五畿内志』編さん者並河五一と龍沢寺を開いた白隠禅師に影響を受け、学問を更に深め、幕府に願い出て伊豆国州誌編さんに全力を傾けた。

秋山富南

(1723~1808)

史学者

地誌『豆州志稿』編さん



安久 秋山家墓地

平成8年度 寄贈資料

資 料 名	点 数	提 供 者	住 所	収 集 月 日
タンス	1	増 島 孝 行	三島市初音台16-9	平成 8. 4. 3
くげ台	1	//	//	//
従軍記章他	3	//	//	//
三島古写真(パネル)	6	本 木 孝	三島市南本町3-5	平成 8. 4. 9
春秋左氏傳稿本	15	旭 太 四 郎	沼津市下香貫宮脇337-26	平成 8. 4. 14
教科書(明治、木箱入)	80	鈴 木 泰 男	三島市東本町1-16-39	平成 8. 5. 24
アイロン(大正)	1	小 笠 原 節 子	三島市文教町	//
裁縫教科書(明治)	4	//	//	//
簪、櫛	7	堀 江 藤 雄	三島市東本町2-9-21	平成 8. 8. 30
銭箱	1	//	//	//
古紙幣	77	//	//	//
古銭	300	//	//	//
御輿(中島、天王)	1	中 島 町 内 会	三島市中島	平成 8. 9. 26
御輿(大場、天王)	1	大 場 町 内 会	三島市大場	平成 8. 12. 10
鋤	1	小 針 博	三島市梅名254	平成 8. 12. 15
扇風機	1	//	//	//
放りマンガ(二人用)	1	//	//	//
放りマンガ(一人用)	1	//	//	//
除草機	1	//	//	//
マンガ	1	//	//	//
軍服コート	1	鈴 木 正 治	三島市並木1085-7	平成 9. 4. 9
軍服冬服(上下)	1	//	//	//
襟章	4	//	//	//
肩章	2	//	//	//

平成7年度 企画展「三島と戦争」収集資料

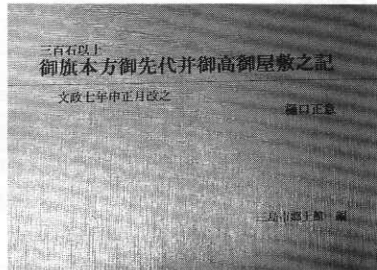
資 料 名	点 数	提 供 者	住 所	収 集 月 日
日露戦争実記	7	大 嶋 英 一	三島市大場1035	平成 7. 4. 28
軍事郵便	2	木 全 ミヨ	三島市旭ヶ丘9-4	平成 7. 4. 18
米穀通帳	1	//	//	//
軍隊手帳	1	小 出 緑	三島市南二日町3-13	平成 7. 5. 3
「戦陣訓」	1	//	//	//
戦友名簿	1	//	//	//
支那事変従軍記章	1	//	//	//
履歴書	1	//	//	//
勲功授章状	1	//	//	//
勲八等白色桐葉章	1	//	//	//
奉祈念富士頂上出征軍人守護札	1	//	//	//
召集解除証明書	1	//	//	//
恩給受給権調査票	1	//	//	//
昭和16年12月9日付朝日新聞	1	//	//	//
桜紋・星紋バッヂ	2	//	//	//
軍曹氏名ゴム印	1	//	//	//
支那事変行賞賜金国庫債券 他	2	//	//	//
胸部勲章着用具	1	//	//	//
襟章	1	//	//	//
田方商業使用世界地図	5	矢 弓 尚 善	三島市大空町1-8-58	平成 7. 4. 7
勅諭勅語集の諳解	1	篠 原 武	三島市日の出町7-30A101	平成 7. 5. 3
衛生法及救急法抜粋	1	//	//	//
軍隊用脚半	1	田 中 修 三 郎	三島市文教町2-8-11	平成 7. 4. 18
軍隊用奉公袋	1	//	//	//
徴兵保険証券	1	平 井 忠 平	三島市大場352-11	平成 7. 5. 5
従軍証明書	1	藤 田 稔	三島市若松町4325-2	平成 7. 4. 21
身分証明書	1	//	//	//
罹患証明書	1	//	//	//
引揚証明書	2	//	//	//
水筒(陶製)	1	細 野 哲 夫	三島市南二日町21-12	平成 7. 4. 15
衣料切符	多数	宮 内 み ゆ き	三島市新谷12	平成 7. 4. 13
衣料切符	19	石 川 宏 次	三島市緑町8-23	平成 7. 4. 13
戦時中の写真(読売新聞社発行)	163	小 原 利 通	三島市徳倉747-59	平成 7. 5. 12
巻脚半	1	山 下 好 信	三島市清住町4-13	平成 7. 5. 11
階級章	1	//	//	//
特甲幹徽章	1	//	//	//
盃(歩三四満期記念、大中小)	3	//	//	平成 7. 5. 24
貨幣(一銭、五銭、十銭)	7	//	//	//
切手(戦時中)	21	//	//	//
営外居住証(2連隊)	1	佐 藤 美 朗	東京都豊島区南池袋3-9-5	平成 7. 5. 21
// (3連隊)	1	//	//	//
プレート(佐藤木工ミシン)	1	//	//	//
// (佐藤金物)	1	//	//	//
中郷村消防団ハッピー	1	朝 立 和 作	三島市梅名221-3	平成 7. 5. 24

樋口本陣史料集出版のご案内

「三百石以上『御旗本御先代並御高御屋敷之記』文政七年申正月改之」を解説し、8年度は(その1)を発刊しました。

内容は三島宿本陣の主樋口正意が文政7年(1824)江戸住まい三百石以上の旗本衆の先代と知行高、屋敷の所在地を記し、旗本の異動に従って書き改めたものです。家紋も書き添えてあり、現在の東京の地図などを参考にすれば史料を読む楽しさが倍加されます。研究図書の一端に加えて下さい。

(1部 1,800円)



次回企画展のご案内

「三島の成り立ちⅡ きたうえ村」

三島市は昭和に入り、三島町と北上村・錦田村・中郷村がつぎつぎと合併し、現在の市域となっています。

北上村は、三島市の北部に位置し、東海道三島宿から御殿場・山梨方面へ抜ける佐野街道(甲州街道)に沿う6つの集落(佐野(萩)、徳倉、幸原、耆丁田、沢地)からなる村でした。箱根山裾に広がる静かな農村地帯で、路傍に道祖神がたたずみ、龍沢寺(臨済宗)からは名僧が輩出し、伊豆長八のこて絵も残るなど、民俗と文化の香り濃い地域です。近年、住宅地として開発され変化の激しい地域ですが、今回の企画展では、北上村の歴史・民俗・文化、そして地区の変貌を取り上げ紹介します。

1. 展示テーマ 企画展「三島の成り立ちⅡ きたうえ村」
2. 展示会場 三島市郷土資料館1階 企画展示室
3. 展示期間 平成10年3月21日(土)～5月10日(日)
4. 主催 三島市教育委員会・三島市郷土資料館
5. 展示概要

- (1)北上村の歴史と変貌……遺跡の分布・徳倉城・北上の変貌(宅地開発と人口増加)
- (2)北上村の民俗……神社・祭り・年中行事
- (3)北上村の文化……寺院・文化財・人物 他

※「きたうえ村」に関する資料ご所蔵の方はご一報ください。

手作り「複製三四呂人形を作ってみませんか」教室(報告)

生涯学習センター開館記念

会場 三島市民生涯学習センター 5階美術室
日時 平成9年5月24日 参加者31人
平成9年5月30日 参加者27人
講師 瀬川 到氏・大場由香氏

三島が生んだ人形作家野口三四郎(市内大中島出身)の三四呂人形「桃子」の複製を手作りしました。郷土資料館2階に展示してある和紙の張子人形で、素朴な愛らしい表情を持ちます。モデルは幼く亡くなった作者の子「桃里」ちゃんであると説明を受けるなど作者の心情にも触れることができ有意義な教室となりました。

仕上がった「桃子」さんは作り手に似ているようでした。

又、素焼きの型は佐野学園の協力で製作され、あらためて佐野学園には御礼申し上げます。



利用案内

休館日 毎週月曜(祝日の時は翌日)
12月27日～1月2日
開館時間 午前9時～午後4時30分(3月31日まで)
入館無料 (但し、楽寿園入場の際、有料)
三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより No.58

平成9年11月20日発行
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
住所 〒411-0036
三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 0559-71-8228
FAX 0559-81-3730
発行 三島市教育委員会

平成9年4月1日より、「三島市郷土館」は「三島市郷土資料館」と名称変更しました。